資料３

櫛引地域まちづくり未来事業の取組状況について

No.	事業名	事業内容	R7予算額（単位：千円）	事業期間	昨年度までの取組状況	今年度の取組状況（実施中）（実施済み）	今年度の取組状況（今後予定している内容）	事業の効果
１．フルーツの里づくりの推進と、地域資源の観光連携による魅力度の向上								
1	くしびきフルーツ振興プロジェクト事業	多品目・多品種生産の特色を生かし、四季折々のフルーツを楽しめる「フルーツの里くしびき」として果樹振興を図る。	4,336	R1～	○果樹生産者実態把握調査 ○果樹振興意見交換会 ○フルーツ食べ比べイベント ○ふるさと納税事業者説明会 ○「くしびきフルーツ日記」総集編の発行（冊子版500部、電子版） ○首都圏等プロモーション	○樹園地継承の仕組みづくり （モデル事例） ○ふるさと納税事業者説明会 【やまがたフルーツ150周年連携事業】 ○フルーツ食べ比べイベント ○さくらんぼ「やまがた紅王」の学校給食提供	○飲食店向けフルーツの利用促進 （圃場見学会の実施）	離農予定樹園地を円滑に継承するモデル事例をつくり、果樹生産基盤の維持を図る。また、情報発信やイベントの実施により、果樹多品目生産の特色を生かした「フルーツの里くしびき」のブランド化が推進できる。
2	櫛引地域都市農村交流促進事業	横浜市立青木小とＪＡ庄内たがわ青年部櫛引支部の交流事業を支援することで、交流人口の拡大や農産物の販路拡大等を促進する	174	R1～	○ＪＡ青年部農産物販路拡大事業補助金 ○農家民宿支援事業補助金（R4で終了）	事業効果を検証し、廃止を検討	○今後の都市農村交流の在り方を検討	修学旅行の受入れを契機に実施してきた横浜市立青木小学校との交流に対する補助ついては、所期の目的を達成。
3	鶴岡市南部エリア観光周遊促進事業	櫛引観光協会、あさひむら観光協会、金峯山観光協会との連携や観光事業者等の助言のもと、観光周遊ルートを確立するとともに効果的な情報発信により、観光客、交流人口、関係人口の増加による地域活性化を目指す。	1,043	R1～	○鶴岡市南部広域二次交通対策調査業務 ○櫛引観光協会とあさひむら観光協会との意見交換会 ○南部広域ツーリズム調査	○鶴岡市南部広域観光商品造成支援業務委託 ○六十里越街道（櫛引部分）修繕	○観光関係者勉強会 ○モニターツアーの実施	昨年実施した調査結果をもとに、勉強会・モニターツアーを実施することで、インバウンドに対応した商品造成のノウハウの蓄積やコンテンツの磨き上げに繋がることが期待できる。
２．黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進								
4	黒川能保存伝承支援事業	保存伝承研究会（歴史文化講演等）開催支援や東小児童仕舞い指導による担い手育成、黒川能保存会運営補助金による支援を行う。	2,961	R1～	○黒川能保存伝承研究会開催支援 ⇒Ｒ６は能装束・面をつけた黒川能体験の実演と海外の講師とオンラインでつないだ講演会を実施。 ○現役能役者による東小児童への仕舞指導（年60回程度） ○運営補助金による黒川能保存会の運営事務全般の補助 ○体験用楽器等の整備	○事業・運営補助金による黒川能保存会への支援 ○東小児童への仕舞指導 ○着付け体験（能面・装束）	○保存伝承研究会の開催（9/14） ⇒黒川を未来につなぐ ・活動紹介、辞令発表 ・活動支援者による講話 ・パネルディスカッション	児童への指導による継承活動と地元への愛着醸成、また、保存伝習研究会をはじめ、各事業が黒川能の理解促進、魅力を発信する貴重な場となっており、継続することが保存伝承につながっている。
5	能楽青年交流事業	首都圏大学等の能楽合宿誘致による黒川能ＰＲと若手能役者等との交流、黒川能伝習館の有効活用などを図る。	400	R1～	○大学能楽サークルの能楽合宿および地元若手能役者等との交流会開催（H28：法政大学能楽研究会11名・H29：國學院大學観世会12名・H30：東京芸術大学能楽専攻7名・R1：國學院大学観世会11名、東京大学能楽サークル10名）R2以降新型コロナの影響で中断もあり昨年度も実績なし	○交流のあった団体をはじめ、プロの能楽関係団体に声がけを行っている	○引き続き大学能楽サークルやその他能楽愛好団体等への事業案内 ○事業内容見直しの検討	コロナ禍となったR2年度以降、希望サークルは無く、交流実績のある団体やプロの団体へ継続して声がけを行っているが、希望者はいない状況。
6	櫛引地域歴史文化施設ガイダンス整備事業	今後増加が見込まれるインバウンドの外国人観光客に対応できる展示物等の多言語化やデジタル化による地元ガイドの負担軽減と担い手の育成、確保を図る。	209	R4～R7	○王祇会館、丸岡城跡史跡公園のパンフレット製本（英語翻訳） ⇒王祇：1,000部、丸岡：5,000部 ○王祇会館、丸岡城跡史跡公園に案内看板を設置（英語翻訳） ⇒両施設1基ずつ ○王祇会館Wi-Fi設置 ⇒王祇祭前にWi-Fi環境を整備し利便性の向上を図った。 ○ガイダンス多言語化 ⇒王祇会館の展示パネルにQRコードつけ、読み込むことで英語表記・音声で解説するシステムを整備	○王祇会館ガイダンス多言語化業務委託 ⇒王祇会館の視聴覚資料に英語字幕を追加（8/29完成）		王祇会館は「王祇祭」の休憩施設となっていることから、Wi-Fiを設置したことで利用者の利便性向上に繋がった。 また、昨年度の「保存伝承研究会」では海外とオンラインで結び、参加もオンラインでも可能になった。通信環境整備によりQRコードを読み込みも可能になり、音声ガイド（英訳）によるインバウンド対応も可能となった。
7	櫛引地域歴史文化施設収益性向上支援事業	地元の企業や教育機関等と協力し、地域資源を活かした新たな高付加価値の商品を開発することで、財源の確保と地域の活性化を図る。	870	R7～		○黒川能に係る新商品開発第1回検討会開催（7/1） ⇒ANAあきんど、鶴岡高専、地元企業と連携し高付加価値の新商品開発検討会開催 ○鶴岡高専の学生による黒川能に関する商品開発に係る校内プレゼン見学（7/29）	○10月第2回検討会 ⇒高専生による商品提案プレゼン、試作へ向けた検証 ○12月第3回検討会 ⇒検証結果を踏まえ試作品決定、次年度以降試作品製作、試験販売を検討	新たな高付加価値の商品を開発・販売することで、黒川能保存伝承に係る財源の確保と地域の活性化が図られる。

3．コミュニティの活性化と明るく健康で暮らしやすい地域づくりの推進

8	櫛引地域花いっぱい運動で環境美化推進事業	住民協働による市推奨花サルビア植栽活動で、美しく住みよい生活環境づくりを支援する。	350	R1～	住民協働による国道112号や各地区のサルビア植栽活動を支援。 ○サルビア苗の配布 ○花いっぱいコンクール ○国道112号線沿線サルビア植栽作業及び撤去作業 ○国道植樹帯のモニタリング ○視察研修会 ○コキアでほうきづくりワークショップ	○サルビア苗の配布 ○国道112号線沿線サルビア植栽作業 （5/24　99人参加） ○国道植樹帯のモニタリング ○視察研修会　（7/8　いいでどんでん平ゆり園【飯豊町】） ○国道植樹帯の除草ボランティア （6/27　25人参加）	○花いっぱいコンクール（9/18予定） ○国道112号線沿線サルビア苗の撤去作業 ○コキアでほうきづくりワークショップ	櫛引地域の環境の美化によるやすらぎのある住みやすいまちづくりに寄与し、多世代の交流によるコミュニティの活性化が図られている。令和6年8月には国道112号線のサルビア植栽等の活動の功績が認められ、国土交通大臣表彰を受賞した。
9	くしびき夏のイベント推進事業	櫛引地域住民が集う「くしびき夏まつり」について、住民交流による賑わいの創出を図る事業として支援する。	180	R1～	○R1くしびき夏まつりの事業費補助 ○R2、R3、R4は新型コロナのため中止 ○R5は実行委員会の体制が構築できなかったため中止 ○R6くしびき夏まつり7/27開催の事業費補助	○人的協力 ○補助金交付 （9/6くしびき秋の大感謝祭開催）	○実行委員会 （次年度事業検討）	地域住民の親睦と世代間交流を図るとともに、子ども向けのイベントを設けることで、『こどもまんなか』の推進が図られる。また、地域内の各関係機関が連携して開催することで、連携強化並びに地域の賑わいの創出が図られる。
10	横綱柏戸記念館活性化事業	横綱柏戸の偉業を知る地元の皆さんや産業観光スポーツ関係者と協働で本館の活性化策を検討し、自主的なイベント等で来館者を増加させ、地域振興や産業観光振興等を図る。	450	R3～	○関係者を招いての横綱柏戸記念館の有効活用等に関わる意見交換会 ○横綱柏戸記念館紹介動画の作成及びSNS等での配信 ○土俵の整備 ○学童相撲大会 ○柏戸に係る講話会 ○朗読劇「柏戸少年記」	○学童相撲大会の開催準備 （9/20開催予定） ○関係者打合せ	○学童相撲大会 ○柏戸化粧まわし特別展	記念館の公開並びに施設を活用したイベントの開催により、偉大な功績を後世に語り継ぐとともに、国技大相撲に対する理解を深めることができる。そして施設の活性化により、来館者が増加し、観光スポット化が図られる。
11	ゆ～Town活性化事業	新たな魅力等を付加するイメージアップ事業により、地元の温泉施設としてより一層地域に浸透させ、地域住民の交流拡大による地域の活性化に向けた取り組みを行う。	800	R4～	○販売促進事業 ・オリジナルキャラクター「ゆ～たん」を活用したキッズルームの設置と子供用バスグッズを作製した ⇒施設のイメージアップとファミリー層の利用促進を図った ○健康増進事業 ・卓球台やスライドボード等のスポーツ器具を新たに設置し、親子卓球教室を開催した ⇒ファミリー層の集客と市民の健康増進を図った ※親子卓球教室参加者13名（子ども6名、保護者7名）	○販売促進事業 ⇒アンケート等の実施による子育て世代の意見聴取を行い、授乳・オムツ替え室を新たにオープン。 ⇒新たなゆ～たんグッズの作製 （エコバック、ボールペン） ○健康増進事業 ⇒親子卓球教室の実施　8/9・10 （募集人数24名）	○販売促進事業 ⇒授乳・オムツ替え室のオープンに合わせＳＮＳ周知キャンペーンを実施する。 ⇒集客イベントにおけるゆ～たんグッズの活用 ○健康増進事業 ⇒親子卓球教室の実施　9/20 （募集人数12名）	オリジナルキャラクターを活用したキッズスペースや子供用バスグッズ、授乳・オムツ替え室を設置したことで、ファミリー層が利用しやすい環境が整備され、利用者の増加に繋がるゆ～Townの魅力度の向上が図られる。 また、各種イベントでゆ～たんグッズを活用することにより、新たな利用者が来館するきっかけづくりが図られる。
12	くしびき若者未来創造事業	地域の若者を対象とした研修や討論を通じてまちづくりへの若者の参画を図るとともに、施策への反映や活動成果が上がるように取り組む。	623	R1～R7	○「くしびきにあかりをともそうプロジェクト」発足（R6） ⇒「ゆ～Townにあかりをともそう」 ・竹あかりづくり（3回） ・和紙あかりづくり（1回） ⇒遊休施設活用視察研修（1回） ○「かだりばくしびき」開催 （R4年度WS3回開催、R3年度WS3回開催、R2年度WS1回開催、R2以前WS対談1回、県外視察1回）	○実行委員会　1回（6/5参加者5名） ○事業打合せ会　1回（8/26） ⇒事業連携に向けた打合せ ・くしあかプロジェクト ・くろかわ農人 ・KADATTEいいでば一	○異業種間交流WS　1回（10月予定） ⇒若手事業主と地元の中高生との交流 ○竹あかりWS　1回（11月予定） ⇒くろかわ農人の秋祭りと連携 ○広域コミュニティ事業との連携WS 1回 ○事業実施に向けた話し合い	話合いとワークショップにより、若者メンバーの施策提案や事業実施能力の醸成に寄与している。